

## 定時定点引取りを廃止した場合の問題点と対策

廃止した場合の問題点	対 策	
引取り場所が遠くなるため、地域住民の負担が増加する。	<p>【飼い犬・飼い猫の場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動物愛護センターが現地に行き有料で引取る（現状でも実施している）。</li> </ul> <p>【飼主不明の場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動物愛護センターが止むを得ないと判断した場合は、センターが現地に行って引取る。</li> <li>市町が止むを得ず保管している犬猫については、動物愛護センターが現地に行って引取る。</li> </ul>	<p>【センターが対応する場合の課題】</p> <p>引取り場所が遠くなり、犬猫を動物愛護センターまで持込むことが困難な地域住民への対応を、動物愛護センターが実施することとすると、動物愛護センターが「現地に出向いての引取り件数」がこれまでより、増えると考えられる。</p> <p>また、動物愛護センターへの「引取り相談件数」も増加すると考えられる。</p>
野良犬・野良猫の増加が懸念される。	野良犬・野良猫を削減するための取組み（資料3）の実施	

※ 有料引取り件数（H25年度）： 32（犬 19， 猫 13）

※ 現地引取り件数（H25年度）： 655（犬 564， 猫 91）

※ 引取り相談件数（H25年度）： 244（犬 195， 猫 49）